

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年5月26日現在

機関番号：14401

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2018

課題番号：17K13687

研究課題名（和文）中国大国化構想に関する包括的研究

研究課題名（英文）Comprehensive Study on Franklin Roosevelt's Vision of Making China a Great Power

研究代表者

高橋 慶吉（Takahashi, Keikichi）

大阪大学・法学研究科・准教授

研究者番号：60456928

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,000,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、日本軍の真珠湾攻撃を受け、第二次世界大戦に参戦したあと、ローズヴェルト米大統領によって推進された中国大国化構想の包括的理解を目指したものである。その構想についてよく参照される研究に、五百旗頭真『米国の日本占領政策』（中央公論社、1985年）第四章「ローズヴェルトの東アジア構想」がある。本研究では、最近のアメリカ外交史研究の発展を踏まえ、五百旗頭氏の研究に補足的説明を加えることで、中国大国化構想の深い理解に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

ローズヴェルトの中国大国化構想は、戦後アジアに対する「ビジョンのエッセンス」をなすものだったと言われるほど重要な戦後構想の一つであった。その解明に努めることは、アメリカ外交史研究において大きな意味を持つ。

また中国大国化構想に対する深い理解は、現代の大国中国に対するアメリカの政策を見る際にも助けとなる。特に、かつてアメリカがどのような考え、期待、あるいは条件に基づき中国の大国化を推進したのかを知ることが重要な現代的意義を持つ。

研究成果の概要（英文）： This study aims to provide a comprehensive understanding of Franklin D. Roosevelt's post-war vision of making China a Great Power. Regarding that vision, there is an outstanding work by historian Iokibe Makoto, but it is the work published more than thirty years ago. This study made an effort to further clarify Roosevelt's vision on China by incorporating recent developments of study on American diplomatic history and adding some explanations to Iokibe's work.

研究分野：アメリカ外交史

キーワード：中国大国化構想 ローズヴェルト

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

日本軍の真珠湾攻撃を受け、第二次世界大戦に参戦したアメリカは、フランクリン・ローズヴェルト (Franklin D. Roosevelt) 大統領のイニシアティブのもと、中国を「大国」とする戦後構想を推進した。その構想は、戦後アジアに対するローズヴェルトの「ビジョンのエッセンス」をなすものだったと言われる (ブルース・カミングス / 鄭敬謨、林哲訳『朝鮮戦争の起源—解放と南北分断体制の出現 1945年—1947年』第1巻、影書房、1989年、p.162)。また、それは戦後中国が国際連合安全保障理事会の常任理事国となることを可能にした構想としても知られている。

そうした構想の理解に努めることは、アメリカ外交史研究の発展のためにはもちろん、現代の大国中国に対するアメリカの政策を考えるに当たり、重要な作業と言えよう。とくに、アメリカがどのような考え、期待、あるいは条件に基づき中国の大国化を推し進めたのかを解明することには重要な現代的意義があるように思われる。

だが、戦中期アメリカ外交に関する研究で中国大国化構想を主題として取り上げる研究は少ない。戦後の中国共産化や米中対立との関係から、アメリカの国民党支援は十分だったのか、中国共産党との関係構築のチャンスはなかったのかなど、中国国内の政治勢力に対するアメリカの政策にもっぱら関心が集中してきたからである。

そうした中、現在でもよく参照されているのが五百旗頭真氏の『米国の日本占領政策 戦後日本の設計図』(中央公論社、1985年)である。五百旗頭氏によれば、中国大国化構想とは「大国による世界管理」構想の一部であり、米英ソに加え中国を世界の管理者として位置づけるものだった。中国にはとくにアジアの管理者としての役割が期待されていたという。

### 2. 研究の目的

本研究では、これまでのアメリカ外交史研究の発展を踏まえつつ、五百旗頭氏の研究に補足的説明を加えることで、中国大国化構想とはどのような構想だったのか、より一層明確なものにしようとした。具体的には次の4つの問題についてさらなる考察を加えた。

- (1) 「大国による世界管理」構想について
- (2) 中国の位置づけについて
- (3) 中国大国化構想の展開について
- (4) 中国大国化の条件について

なお、中国大国化構想についてはすでに、2015年12月に中国・長春で行われたシンポジウム、「近代中国と東アジアの新環境」に提出した論文(非公刊)と、2016年10月の日本国際政治学会・研究大会に提出した論文(非公刊)の中で、予備的考察を行っていた。本研究においては、そのブラッシュアップに努め、公刊を目指した。

### 3. 研究の方法

本研究は外交史研究であることから、歴史資料の調査、収集、分析が主たる研究上の方法となる。2017年度には、主として公刊資料 (*Foreign Relations of the United States* など) の調査、収集、分析とインターネット上で閲覧できる非公刊資料の分析に当たった (ローズヴェルト大統領図書館のホームページを通して、かなりの量の非公刊資料を閲覧することが可能となっている)。

2018年度には、2017年度と同じ作業を行うとともに、アメリカ国立公文書館に出かけ、国務省と軍部の資料を中心に、資料の調査、収集に当たった。

### 4. 研究成果

#### (1) 「大国による世界管理」構想について

中国大国化構想の前提を成した「大国による世界管理」構想は、五百旗頭氏が指摘しているとおり、「国際連盟の無力さ」に対する「幻滅」から、「大国の団結」を重視するものだった。加えて、中国にはとくにアジアの「管理者」、ローズヴェルトの表現を使えば「警察官」としての役割が期待されていたと五百旗頭氏が述べているように、「大国による世界管理」構想は大国の地域的役割に期待をかけるものでもあった。この点については、歴史家キンボール (Warren F. Kimball) も、「ローズヴェルトの戦後構想を理解するにあたりきわめて重要なことは、彼がそれぞれの警察官の地域的役割に常に重きを置いていたということだ」と述べている。

(Warren F. Kimball, "The Sheriffs: FDR's Postwar World," in David B. Woolner, Warren F. Kimball, and David Reynolds, *FDR's World: War, Peace, and Legacies*, Palgrave Macmillan, 2008, p.95) 本研究では、ローズヴェルトが大国の地域的役割を重視したのはなぜなのか考察に取り組み、その理由として1930年代の西半球政策(善隣外交)の成功という経験があったことを指摘した。加えて、その経験に基づくローズヴェルトの「大国による世界管理」構想は、大国に対して善隣外交の実践を求めるものであったことを明らかにした。

## (2) 中国の位置づけについて

ローズヴェルトの戦後構想において、アジアの管理者となるべき国家は中国ではなかった。五百旗頭氏の研究で紹介されている 1942 年末の蒋介石宛メッセージ草案に、

「広大な西太平洋地域においては、中国とアメリカが最大の責任を負う国としての資格を有する」

とあることから明らかなように、アメリカもアジアの管理に当たることになっていたのである。しかも、1943 年 12 月にローズヴェルトが承認した統合参謀本部作成の戦後基地計画(JCS570/2)によると、アメリカは北東アジアから東南アジアにかけての地域に多数の軍事基地を設置することになっていた(この点については、川名晋史『基地の政治学—戦後米国の海外基地拡大政策の起源』[白桃書房、2012 年]を参照)。

一般的に、中国大国化構想と言えば、アジアの管理を中国一国に任せようとするものだったと考えられがちである。だが、戦後基地計画はそうではなかったことを明確に示している。

そもそもローズヴェルトは、国民党と共産党の対立を内部に抱え、国家統一すら十分に達成できていなかった中国に、単独でアジアを管理し得るだけの能力があるとは考えていなかった。この点、五百旗頭研究には、中国はアメリカの「ジュニア・パートナー」という位置づけだったという、簡単なが重要な指摘がある。本研究では、ローズヴェルトの中国観や戦後基地計画の分析を通して、その指摘をさらに掘り下げ、検討した。

## (3) 中国大国化構想の展開について

中国が、国連安保理常任理事国としての地位を獲得するまでの中国大国化構想の展開を見た。その作業でとくに注目したのが 1945 年 2 月のヤルタ協定である。周知のように、その協定でローズヴェルトは、スターリンが要求した中国主権にかかわるいくつかの事項に対して、中国側と十分協議することなく同意を与えた。そのことは、ローズヴェルトが中国大国化構想を戦争末期には放棄していたことを示すものとして理解されがちである。だが、本研究では(1)と(2)の検討を踏まえ、ヤルタ協定は中国大国化構想をむしろよく反映したものとして見ることができるという新たな解釈を提示した。

## (4) 中国大国化の条件について

中国大国化構想の前提、内容、展開に関する以上の検討から、中国の大国化には少なくとも 3 つの条件があったことを明らかにした。すなわち、国家の統一、アメリカのアジア・プレゼンスの受け入れ、善隣外交の実践の 3 つである。

本研究では、これら 3 つの条件との関係から、戦後における中国大国化構想の挫折の問題についても検討した。また、現代の大国中国に対するアメリカの政策について考察を行った。

なお、上記(1)(2)(4)については、下記の論文、高橋慶吉「F. D. ローズヴェルトの戦後アジア構想 中国大国化の条件」(瀧口剛編『近現代東アジアの地域秩序と日本』大阪大学出版会、2019 年)で論じた。また、近く出版予定の単著の中でも論じている。その単著では、(3)についても詳しく論じた。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 2 件)

(1) 高橋慶吉「F. D. ローズヴェルトの戦後アジア構想—中国大国化の条件」大阪大学政治史研究会、2018 年 9 月

(2) 高橋慶吉「F. D. ローズヴェルトの秩序構想と戦後アメリカ外交—中国大国化構想を中心に」大阪大学政治史研究会、2017 年 11 月

〔図書〕(計 1 件)

高橋慶吉「F. D. ローズヴェルトの戦後アジア構想 中国大国化の条件」瀧口剛編『近現代東アジアの地域秩序と日本』大阪大学出版会、2019 年出版予定

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

なし

## 6 . 研究組織

(1) 研究分担者  
なし

(2) 研究協力者  
なし

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。